

令和7年度 第10回梅坪台地域会議 会議録

- 日時 令和8年2月3日（火） 午後7時～午後8時30分
- 場所 梅坪台交流館 2階 大会議室
- 出席者

<委員>	岩崎 洋平	岩松 初男	川井 圭子
	鈴木 重久	鎮西 和也	長江 秀昭
	三岡 英隆（欠席）	山村 史子	依田 武人
<交流館>	杉山 浩子（梅坪台交流館 館長）		
<事務局>	青木 勉（地域活躍部 部長）	杉浦 智文（地域交流課 課長）	
	槌井 功二（地域交流課 担当長）	勝野 一城（地域交流課 主査）	

■ 内容

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告・協議事項
 - （1）梅坪台地域会議提言書の提出
 - ・提言書の説明（鎮西委員）
 - ・つなぐ会の取組み説明（長江副会長）
- 4 連絡事項

■ 議事内容（要約）

<主な意見>

- 3 報告・協議事項
 - （1）梅坪台地域会議提言書の提出
 - <提言書の説明（委員）>

梅坪台地域会議では、2024年4月から地域課題を洗い出し、特に「地域と子どものつながり」を重点課題とし、検討してきました。子ども会の解散や加入率低下、役員不足など、子どもと地域とのつながりが希薄化しており、さらに市民意識調査からは、地域全体のつながりも低下していることが確認されました。

地域のつながりが希薄化することにより、個人の生きがいの喪失や孤独・孤立の増加などの問題だけでなく、地域活動の担い手不足や防災・防犯力の低下など、地域全体への影響も懸念されます。そのため梅坪台地域は、地域住民同士のつながりを強化し、長期にわたって継続できる取組が必要と考えました。

地域住民同士のつながりを強化し長期にわたって継続できる取組が必要ですが、自治区や子ども会のみで地域のつながりを作っていくのには限界があるため、地域全体でつながりを再構築する必要性を共有し、「子どもの笑顔とともに人と人のつながりを育み未来へつなげる梅坪台」という理念を掲げました。希薄化した地域のつながりを一歩ずつ再構築し、互い

に支え合い、人と人とのつながりを通じて生きがいを感じることができる環境づくりを推進していきたいと考えています。

この理念のもと、子どもを中心とした多世代の地域住民とのつながりを生み出すきっかけとして、子ども会の運営の負担を軽減するとともに、地域住民も子どもと触れ合える仕組みを作れないか、具体化策を今年度から協議してきました。地域住民と子どもたちがつながり合える機会を創出し、継続できる事業を作っていきたいと考えています。事業の実施に当たっては、子どもたちの保護者や高齢者など多様な世代を巻き込みながら、多世代交流の促進、地域でつながる・支え合える意識醸成、地域を支える人材発掘・育成を図りたいと思います。

具体的な事業は、次で説明いたします。

<つなぐ会の取組み説明（副会長）>

梅坪台子どもと地域をつなぐ会は、梅坪台地域会議で2年間にわたり議論してきた「地域と子どものつながりの希薄化」という課題を受けて発足した組織です。地域に愛着を持つ子どもを育てること、子ども会活動の継続を支えること、多世代が楽しく関われる場をつくることを目的としています。

組織は、賛同自治区のサポート委員と希望する高学年児童による子ども委員で構成され、地域学校共働本部や各自治区、交流館、子ども会、小学校、PTAなどと連携しながら活動します。

主な取組は、自治区単位で開催する二つのイベントで、新年度の入学・進級を祝う「キッズのスタートを祝うつどい」と、子どもと大人が一緒に楽しむ「地域のつどい（クリスマス会）」です。これらのイベントはサポート委員会が計画・運営し、当日は自治区からボランティアを募って子どもたちと交流します。

つなぐ会は、地域学校共働本部を中心に子ども会とは役割を分け、悪影響を与えないようにしながら、相乗効果が得られる形で地域全体のつながりを再構築することを目指しています。

<意見交換>

市長：つなぐ会の活動は、既に動いていますか。

委員：今年の4月からです。

市長：課題となっているのは事務局機能ですか。

委員：地域学校共働本部は地域と学校をつなぐコーディネート業務に限られますので、つなぐ会の組織の中での活動は、ボランティアです。

市長：地域学校共働本部は納得していますか。地域学校共働本部の方が事務局の役割を担われるのですか。

委員：地域学校共働本部の規定上、事務局ができないのは仕方がない部分があります。

市長：地域学校共働本部のコーディネーターが、その役割から切り離してスタッフとしてやるということですか。何が困っているのですか。資金面ですか。

委員：困っているのは、資金面ではなく地域学校共働本部の活動の規則で、地域コーディネーター業務に限られ、議論してきた組織の中に入って事務局ができないため、事業の継続性の担保が取れないところにあります。

委員：資金面は、いろいろなところにアプローチをかけている。賛同いただけた自治区から一定の援助は予定できると思います。

市長：先ほど発表の中であった2025年度の事業とは、何ですか。

委員：その事業は、「うめつぼ広場」というわくわく団体が実施しているボランティア事業で、つなぐ会とは別の事業です。

委員：子どもとのつながりをつくる事業が梅坪台には他にもあるということの補足の説明です。

市長：既にそういった事業が他にもあるのに、なぜ他に別の事業を立ち上げる必要があるのですか。スタッフ不足という課題がある一方で、さらに別のものを作って新たなスタッフを獲得するのは大変ではないですか。そして、そこに地域学校共働本部をあてにするのは、少し違和感があります。二十歳の集いやふれあいまつりのこども版をやれば、イメージに近いような気がする。

委員：副会長の紹介した「うめつぼ広場」の活動は、オール梅坪台で実施していて、つなぐ会は自治区単位のコアな、比較的狭い範囲のところを狙っています。子ども会との意見交換において、子どもたちのつながりの出発点としては、自治区単位でフォローアップするといいという議論になっています。

市長：東梅坪、西山、京町の3つの自治区が手を挙げているということですね。地域学校共働本部の限られたスタッフがあてにされるとするのは、マンパワーとして大丈夫ですか。

委員：たしかに配慮する点ではあると思いますが、たまたま、副会長、三岡委員が地域会議委員と地域学校共働本部の地域コーディネーターを兼任されていますので、了承はいただいています。

市長：そうなんですか。地域学校共働本部ですか。

委員：個人的な意見かもしれませんが、子どもの名前や住所など情報を一般のボランティアグループに預けることに少し違和感がありました。教育委員会が所管する地域学校共働本部ならしっかりと管理していただけたらと思ったことが、このつなぐ会の議論のスタートになっています。

市長：地域学校共働本部にそこまで求めると、個人情報は大変ですが大変ですね。親も忙しいし、子ども会の役員のなり手が無いと言われますが、「やってもいいよ」という人が必ずいると思います。ただ、そういった方が自然な形で参加できる社会の雰囲気が無い気がする。

委員：そもそも私たちは子ども会を存続させたいと思っています。子ども会をサポートするためにイベントの負担や役員の負担に対して手助けすることが何かないか、が私たちの議論のスタートでした。つなぐ会によって、参加しやすい雰囲気づくりが醸成されれば、市長の言うように、子ども会の手助けにならないかと考えています。。

市長：つなぐ会の2つの事業、これ以外にも年間通して何か事業がありますか。

委員：つなぐ会ではありませんが、子ども会では、お祭りなど地域性のある行事が予定されています。

市長：この2つの事業の中で、言われるほど個人情報が必要になりますか。参加すれば自然に名前を呼びあったり、自治区単位であればそもそも名前はお互いに知っていたりしますよね。

委員：逆に質問ですが、地域学校共働本部の理念を学ばせていただいて、学校と地域社会の子どもたち・大人たちをつなぐ、社会性を磨く機会を作る、と理解しています。なかなか地域と関わりを持つことができなくなっている子どもたちがいる状態に対して、地域学校共働本部の働きとして学校教育のインプットに重点があるのはわかりますが、アウトプットの方にももう少しご協力いただいてもいいかなと思いました。つなぐ会を進める中で引き続き、協議を進めていただくことにはなると思います。

委員：細かい話ですが、事業に参加していただくためには、保険に加入する必要があるって、個人情報が必要になります。

市長：正直、地域学校共働本部がどういうことやっているのかあまり承知していなくて。ただ、市内一律で設置していますので、人材確保がとても大変です。長江さんのような人に恵まれればいいですが、市域全体で見ると最低限の機能に落とし込んでいかないと人材確保が恐らくできません。今回のように地域学校共働本部と別にして、やる気のある方で進めるのがいいと思います。

委員：地域学校共働本部が事務局を担うことを認めてほしいという要望ですか。

委員：認めてほしいということではなくて、今後も考えていけばいいと思います。長江さん、三岡さんの地域学校共働本部の2人だけに担わせるということではなく、地域とか他の方たちも入っていただく組織図になっていますので、全体でフォローするということかと思います。

委員：そうすると提言の中で市に何を願うのかは、予算とかPR活動ということですか。もともと子ども会が解散して子どもと地域との縁が切れてしまっていて、そこをつなげていきたい。子ども会の枠で考えると子どもがいる親に限定されてしまうので、地域も子ども会の役員になれるような、子ども会の枠にとらわれないよう取り組みを考えています。地域のお祭りでは、単位が梅坪台地域全体なので少し大きすぎるということで、現在のつなぐ会の形になっています。

市長：対象は、就学前の子どもを考えていますか。

委員：小学1年生から6年生を対象に考えています。

市長：そのあたり子どもたちの地域のつながりは、自治区エリアなのか。

委員：子ども自身は、いろいろなところに習い事に行ったり、スポーツクラブに通ったりと、自治区に縛られず広域に活動しています。ただ、地域の人たちとの関わりを考えると、通学団単位くらいで顔が見える関係ができるとよいと思っています。また、自分の自治区でさえ知らない大人たちもいるかもしれませんが、自治区単位で事業をすることで、自治区を認識してもらえるかもしれません。賃貸住宅比率が高いという梅坪台地域の特徴もあるのではないかと考えています。こうした議論から、子どもを基軸にして自治区単位の活動で考えたほうがいいということに至りました。

市長：自治区の集会場を子どもに開放するというのはどうですか。居場所づくりということで。

委員：開放している自治区はあります。

市長：まあ、何かとりあえずやってみてはどうですか。

委員：行政に求める支援について、地域学校共働本部の連携・協力については、独立してやってみるということになりましたが、公共施設等の活用支援、メディアへのPR、財政的支援について、事業を実施するうえでお願いしたいことがあれば。子どもたちへのプレゼント費用も考えなくてははいけない。

市長：税金でやるのは簡単ですけども、むしろ区域内の民間の協賛で関心を持ってもらってやる方がいいと思います。メディアについては、いいことを実施すれば必ず取り上げますので、行政が出す情報発信はあまり役に立たないし面白くない。子ども会が無くなったからといって子ども会への助成金をやめるのではなく、こういう活動をするのであれば改めて子ども会として助成金を出せばいいと思います。担当課とは、確認も相談もしていないけれども。

委員：地域の企業に協賛をお願いすれば集まると思います。

市長：協賛を依頼すると結構いろいろなものが集まると思います。啓発グッズを作ったりもできます。また、小中学校の体育館も是非使ってほしい。費用をかけて空調設備も整備したので、学校教育だけでなく社会教育でも是非積極的に使ってほしいと思っています。

委員：親が忙しくて子ども会の参加が阻害されているので、私たちのようなリタイア組を活用していただければいいと思いました。

委員：子ども会がなぜ解散するかと考えると、時代の流れだと思えます。昔は、こども会って大事でした。今、こういう問題が起きているのは、親の勝手と覚えてならない。順番に役員をやればいいが、共働きの時代で致し方ない。子ども自身も習い事で忙しい。上手にやっっていけるようにバックアップしないといけない。自治区と子ども会がもっとつながって、密接な関係を持つ必要があると思います。

委員：地域活動に参加している人材の発掘とか誰が何をしているといった情報を発信してもらえるとよいと思います。自分も自治区の評議員になって地域会議が何をしているのか初めて知りました。もしかしてもっと興味を持っている人がいて、課題・アイデアが出てくると思います。

委員：上手くいくかどうかはわからないが、とりあえずやってみて修正しながら進めたいと思います。

委員：梅坪台地域は、区画整理ですごく人口が3~4倍に増えましたが、それに対応したまちづくりができていませんでした。その当時にもう少しまちづくりができていれば、こんな状態にはならなかったと思います。

委員：やってみようというご意見をいただいて嬉しく思います。自治区が何をやっているかも知らず、日々忙しく過ごしている人が多いですが、「社会関係資本」を大切にしていきたいです。子ども同士、子どもと親、子どもと親以外の大人、大人同士のつながりが、子どもを育てていくうえでとても大切なものだと思っています。私たちのよう

なりタイア組も親世代に対してもう少し何かお手伝いできることがあればよいと思い、提言させていただきました。

委員：最後に市長から感想をお願いします。

市長：難しいなと思うのは、市民意識調査結果で「あなたは近所との付き合いがどのくらいありますか」の割合が市全体と比べて低いが、見方によっては、近所付き合いが無くても日常生活が成り立つので、幸せなことと捉えることもできる。切実な地域は、近所付き合いが無ければ生活できない。梅坪台は住みやすく、いいところだなとなる。こういうデータの見方は裏腹で、子どもたちがこの状態で将来 20 年、30 年と住み続けられるかということとそんなことはなく、子どもを起点としたまちづくりが必要だと思います。単発のイベントはわかりやすいけれども、それよりも集会施設を日常的に開放すれば、学童保育をやらなくても、集会施設がたまり場になって、学校の上級生と遊んだり勉強したり、高齢者クラブの方が話し相手になったりすることが日常的になれば、まったく違う景色になると思います。そういうことをやってもいいよという人が必ずいます。絶対いるはずだけれども、それを言い出せない。言い出せる雰囲気ではない。そこをどうやったら乗り越えられるかなと思います。お茶のコーナーでも作って、お年寄りがお茶を飲みながら子どもをぼーっと見て、暇な人おいでとやるというかもしれない。地域の集会施設は、市から 8 割の補助金が入っているが、利用が本当に限定的な使われ方になっているのもったいない。つなぐ会も「うめつぼ広場」もすごいと思うけれども、地域の方たちと日常的に接点を持てる仕組みができれば、特に子どもは上下の関係性が体験できると、劇的に変わると思います。他の地域会議に出かけると、提言は素晴らしいけれども「誰がやるのですか」というと話が止まってしまう。地域会議のメンバーでとりあえずやってみると良いと思います。誰でも「こう考えたからやってくれ」と言われると面白くない。石川市議がお見えですので、浄水の PTCA の C は実際に機能していますか。新しい人は入ってきていますか。

石川市議：機能しています。

市長：コミュニティに新しい人が入ってくる。子ども会は親が面倒を見るというのを取っ払い、誰でも面倒が見られるようになれば、親以外の大人が関わったほうが子どもは良く育つと思います。親からガンガンやられているよりも親は少し離れて横に置いておいたほうがいい。戻りますが、集会施設を開放して、そこに行けば誰かがいる。お茶でもコーヒーでも置いて地域の高齢者などが日常的に子どもの面倒を見られたらいいなと思います。

委員：地域学校共働本部主催で交流館の会議室を借りて春休みに子どもの居場所づくりを地域の有志を募ってやります。期待してください。

委員：地域実践セミナーで取り上げられた事例ですが、青木の少し上のほうの自治区で 10 年近く自治区会館を開け続けた事例がありました。自治区会館の活用方法を今後、検討しないといけないと思いました。

市長：いろいろな選択肢があると思います。高齢者クラブが子どもの見守り活動をやられますが、区民会館でやれば一石二鳥になります。しかも、高齢者クラブの人数はたくさんいらっしゃると思いますので、グループでやられる方たちを巻き込んで一旦スタートすれば、困ったときも何とかかなると思います。浄水の PTCA の C を絶えず巻き込むような

仕組みを参考にするとよいと思います。浄水の卒業式は、PTCA 会長ですので、保護者でない方がやります。少ししゃべり過ぎました。

委員：市長と貴重な意見交換ができました。いただいたコメントをつなぐ会でさらに検討して、モデルケースになれるよう頑張っていきたいと思います。遅くまでお付き合いいただきありがとうございました。

4 連絡事項

<来年度の地域会議スケジュールについて>

- ・3月の地域会議は中止

<今期末退任委員からごあいさつ>

- ・鈴木会長、長江副会長、川井委員、山村委員、依田委員からあいさつ

■ 今後の予定

令和7年度 第11回梅坪台地域会議 【中止】
3月10日（火）午後7時00分～ 梅坪台交流館